

EMI
CLASSICS

La campanella
The Best of **Cziffra** — 1 set



EMI
CLASSICS

EMI Music Japan Inc.
TOCE-14005 STEREO ● MADE IN JAPAN

ラ・カンパネラ (ベスト・オブ・リスト)

THE BEST OF LISZT

リスト

LISZT

- | | | |
|---|---|--------|
| ① | ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰八短調
HUNGARIAN RHAPSODY No.2 IN C SHARP MINOR | 10'11" |
| ② | ハンガリー狂詩曲 第6番 変ニ長調
HUNGARIAN RHAPSODY No.6 IN D FLAT MAJOR | 6'56" |
| ③ | ハンガリー狂詩曲 第15番 イ短調 《ラコッツィ行進曲》
HUNGARIAN RHAPSODY No.15 IN A MINOR "RAKOCZY MARSCH" | 4'46" |
| ④ | ラ・カンパネラ (パガニーニによる大練習曲 第3番)
"LA CAMPANELLA"(No.3 OF PAGANINI-ETUDES) | 4'10" |
| ⑤ | 愛の夢 第3番 変イ長調
"REVE D'AMOUR" No.3 IN A FLAT MAJOR | 4'22" |
| ⑥ | 小鳥に説教するアジジの聖フランソワ (2つの伝説曲 第1曲)
LEGENDE No.1-SAINTE FRANÇOIS D'ASSISE PREDICATION AUX OISEAUX | 7'51" |
| ⑦ | リゴレット・パラフレーズ (ヴェルディ曲、リスト編)
RIGOLETTO PARAPHRASE | 7'12" |
| ⑧ | ファウスト・ワルツ (グノー曲、リスト編)
FAUST WALTZ | 10'45" |

ジョルジ・シフラ (ピアノ)

GYÖRGY CZIFFRA (Piano)

Recorded : 21 Aug., 1956(① - ③), the latter 1950s(④ ⑦), 2 & 5 Feb. & May, 1977 & March, 1978(⑤ ⑥), the latter 1960s(⑧)

Remastering Engineer : Yoshio Okazaki

改めて傾聴したいシフラのリスト

「ジョルジ・シフラ」の名を聞くと、いまでも圧倒的な技巧を駆使した、輝かしい響きに彩られた演奏を思い出す方が多いだろう。しかし、ハンガリーに生まれ、フランス国籍を得て亡くなったシフラの前半生は、戦争と政治体制による過酷な運命に翻弄された。

ジプシー（現在はロマと呼ぶ）の血筋に生まれたシフラは、10代前半から演奏活動をするほどの神童だったが、第2次世界大戦では捕虜生活、終戦後の1950年、社会主義国になったハンガリーからの亡命を企てて失敗。牢獄生活を経て復帰、ハンガリーにおける最高の荣誉であるリスト賞を授与されながら、国内の息苦しさを嫌って、1956年の動乱を機に亡命、ようやく比類ないテクニックと音楽性を思う存分発揮できるようになった。

ヨーロッパにおけるシフラの名声を築いたのが、颯爽として華やかなリスト作品の演奏だった。このアルバムは、亡命直後の1956年の録音デビューから、78年までに収録された演奏で編まれている。およそ20年ほどのタイムラグがあるが、どの曲を聴いても技巧の冴えは素晴らしく、自由奔放で迫力満点の表現にも圧倒される。さすがに“リストの再来”“シフラのリスト”と驚嘆するしかない。しかし、シフラのリスト演奏には、濃やかすぎるほどの情感が漂ってはいないだろうか？「今様のリスト」「超絶技巧のエンターテイナー」と割り切っていいものだろうか？いま改めて傾聴する価値があると思われる。

ハンガリー狂詩曲集より 第2、6、15番

《ハンガリー狂詩曲集》は、リスト（1811 - 1886）が故郷に住んでいたジプシー（ロマ）の民俗舞曲チャルダシュ風の形式を主に用いて書いたピアノ独奏曲集（全19曲）。第2番は、全曲中最も有名な作品。流浪の民のほの暗い情熱がうたわれるラッサン（悲しみをこめたゆるやかなテンポの舞曲）の部分とフリスカ（快活で興奮をあおる舞曲）の部分、華麗な超絶技巧によって、エネルギッシュな踊りとして描かれる。第6番は、冒頭と終わりにアレグロの旋律が晴れやかに堂々と奏され、途中で軽快な舞曲とラッサン風の旋律が切々とうたわれる。第15番《ラコツィ行進曲》は、ジプシー的な要素が一切除かれた、曲集中の“異端児”。ハンガリーの英雄ラコツィ公が好んだという国民歌を主題として、壮麗で多彩な技巧を散りばめて書かれている。

ラ・カンパネラ（バガニーニによる大練習曲 第3曲）

《バガニーニによる大練習曲》（1838年作曲、全6曲）の第3曲で、バガニーニのヴァイオリン協奏曲第2番第3楽章〈鐘のロンド〉に基づく曲。鐘の響きを模したリズムカルな主題は原曲よりも鮮やかさを増しており、特に高音域の輝かしさは比類なく美しい。

愛の夢 第3番 変イ長調 「3つのノクターン」という副題をもつ《愛の夢》は、この第3番によって格別に人気の高い小曲。いずれもリスト自身の歌曲の編曲で、第3番はフライリヒラートの抒情詩『愛しうる限り愛しなさい』をも

とにした、やるせないほど甘美な恋の歌。

小鳥に説教するアジジの聖フランソワ（2つの伝説曲 第1曲）

1861～63年作曲の《2つの伝説曲》の第1曲。題材は、13世紀の聖人フランソワが、小鳥に教をほどこす情景を音画ふうに綴った小説。小鳥のさえずりや森のさざめきを表す高音域のトレモロおよびトリルと、聖人の語りを表す格調にあふれた旋律が織りなす美しく神秘的な音楽である。

リゴレット・パラフレーズ（ヴェルディ曲、リスト編曲）

リストはピアニストとしての演奏会において、自作以外に他人のオペラなど多くの作品を編曲して紹介した。最も有名なのがヴェルディの《リゴレット》によるパラフレーズ（華やかな装飾を施したもの）で、素材は第4幕の有名な四重唱の後半から採られている。原曲を巧みに生かした名技のアラベスクといった趣の編曲は、アンコール・ピースとして抜群の効果を発揮する。

ファウスト・ワルツ（グノー曲、リスト編曲）

フランス・オペラの大家グノーの代表作《ファウスト》の第2幕で、群衆が合唱するワルツを、ほぼそのままピアノで奏でたもの。軽快で美しいワルツ主部の間に、より流麗な中間部が挿入されるシンプルな構成だが、オペラのシーンを彷彿とさせる名編曲である。

ジョルジ・シフラ

1921年11月5日ブダペストに生まれ、94年1月15日パリで没したハンガリー出身、フランスのピアニスト。神童の誉れ高く、12歳から国外での活動も始めた。第2次世界大戦後、社会主義体制下のハンガリーでは思想犯として投獄されるなど、苦難の連続だったが、56年のハンガリー動乱を機に西側に亡命、驚異のテクニックと哀感と激情の対照を鮮やかに描いた音楽性を発揮、“稀代のリスト弾き”として一世を風靡した。来日は1964、67、80年。

（近藤憲一）

〈取り扱い上のご注意〉 ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。 ●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。 ●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。 ●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。 〈保管上のご注意〉 ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。 ●ディスクは使用后、元のケースに入れて保管して下さい。 ●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。